

日時：令和8年2月25日（水）
10時～11時30分
場所：京都市役所分庁舎4階 第3会議室

1 開 会

2 議 題

- (1) 次期京都市地域コミュニティと市民参加に関するビジョン（以下、「次期ビジョン」という）の策定について
（資料1）
- (2) その他報告事項



京都市市民参加推進フォーラム委員名簿（令和7年10月1日時点）

（敬称略／50音順）

氏名 （◎：座長、○：副座）	肩書等	委嘱期間
荒木 勇輝	特定非営利活動法人寺子屋プロジェクト（Tera school）代表	R2.4.1～R8.3.31
◎ 乾 明紀	京都橘大学経済学部 教授	H31.4.1～R9.3.31
今里 佳奈子	龍谷大学政策学部 教授	R7.6.1～R9.5.31
岡田 祐樹	京都青年会議所 副理事長	R7.1.1～R8.12.31
○ 白水 育世	一般社団法人マチノミカタ 理事	R4.4.1～R8.3.31
竹田 明子	公益財団法人京都市ユースサービス協会ケア事業担当統括	R6.8.1～R8.7.31
千葉 晃央	京都光華女子大学看護福祉リハビリテーション学部 准教授	R6.8.1～R8.7.31
中嶋 もも花	市民公募委員	R7.4.1～R9.3.31
○ 並木 州太郎	龍谷大学政策学部 講師	R3.4.1～R9.3.31
西澤 純	市民公募委員	R6.4.1～R8.3.31
平井 誠一	株式会社西利 代表取締役社長	R7.4.1～R9.3.31
平野 哲広	京都信用金庫QUESTION 館長	R6.8.1～R8.7.31
松井 順子	藤城学区自治連合会 副会長	R7.6.1～R9.5.31
水本 園乃	市民公募委員	R7.4.1～R9.3.31
森田 明男	市民公募委員	R6.4.1～R8.3.31

本日の会議では、以下のことを目指します。

- 京都市地域コミュニティと市民参加に関するビジョン（次期ビジョン）について、パブリック・コメントを踏まえて確認する。

【報告】 所要時間：約 70 分

- ・ パブリック・コメント結果の報告及び結果を反映した次期ビジョンの説明・確認

パブリック・コメント結果

パブリック・コメントについて

◆ 募集期間

令和7年12月25日（木）～ 令和8年2月2日（月） 40日間

◆ 募集結果

・ 意見総数 1,924件、意見者数 589人

・ 意見者数の内訳

① 年齢別（人）

～19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳～	不明	合計
113	343	11	15	14	11	19	63	589

② 居住地別（人）

京都市内	京都市以外の市区町村	不明	合計
208	292	89	589

パブリック・コメントの主な意見（第1章）

◆ ビジョンに反映した御意見（要旨）

ページ	御意見	反映の状況
1	京都の「まち柄」に掲載されている写真（左上、右下）が何をしているのかよくわからず、伝わらない。	写真にキャプションを追加。 左上：防災訓練 右上：地蔵盆の数珠回し 左下：子ども食堂 右下：子ども達の見守り活動
1	「まち柄」が一般的な言葉ではない（造語）であるため、市民に伝わりにくい。	ビジョンに追記する市長挨拶において、過去の松井市長の発言内容（人には人柄、国には国柄と同じ論理で「まち柄」という言葉を使っている等）を踏まえて記載予定。
3	写真がどの文章を補完しているのかわからず、役目をはたしていない。	画像が、波線部分（多様な主体が交ざり合い・・・社会総がかりで協働）を補完していることがわかるよう、画像の位置を調整。
3	行政に求められる役割の「広い意味での「公」を担う」の意味があいまいであり、不要ではないか。	「広い意味での「公」を担う」を削除したうえ、冒頭から4行目の「すなわち、」の前までの文章を修正。
3	「新たなビジョンの策定」の末尾は、「実現するため本ビジョンを策定します。」とした方が、文章として自然ではないか。	「新たなビジョンの策定」の末尾（「目指すまちの姿を実現します。」）を、「…実現するため本ビジョンを策定します。」に修正。
4	図中、各分野別計画に「人権」を追加すべき。人権分野は、列記されている分野と同等以上に重要である。	分野別計画の事例に「人権」を追記。

◆ 参考とする主な御意見（要旨）

- ・ 行政の役割に期待する。区役所の役割が重要である。
- ・ 地域コミュニティと市民参加の一体的な推進に賛成する。ビジョンに賛同する。
- ・ 地域課題の解決には、多様な主体の連携・協働が必要である。孤独・孤立を生まないように、地域と人とのつながりが重要である。
- ・ 京都のまち柄を大事にして、継承して行って欲しい。
- ・ 地域のはつながりは重要であり、それぞれの市民の事情に応じて参加できる仕組みが必要ではないか。
- ・ 市民が主体的に市政やまちづくり活動に参加し、市民と行政が共に市政をつくる必要がある。

パブリック・コメントの主な意見（第2章）

◆ ビジョンに反映した御意見（要旨）

ページ	御意見（要旨）	反映の状況
5	<p>ページの間にある三角形は、次ページのイラストを指していると思われるが、三角形が何を伝えたいのかわかりにくく、全体としてよくわからなくなっている。</p>	<p>「第2章 目指す姿」、「みんなで目指したいこれからのまちの姿」、「目指す姿を描くうえで大切にしたい視点」の関係がわかりづかったため、文言を整理。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「みんなで目指したいこれからのまちの姿」 ⇒「みんなで実現したいこれからのまちの未来像」 ・ 「目指す姿を描くうえで大切にしたい視点」 ⇒「まちの未来像を実現するうえで大切にしたい視点」 <p>三角形（矢印）がページ下部に位置しており、5ページの大切にしたい視点から、6ページに向かって印象になるため、5ページ全体から6ページに向かわせるよう、三角形の位置を調整。</p> <p>5ページを踏まえて、6ページの目指す姿になっていることがわかるよう、矢印付近に説明として「まちの未来像の実現に向けて目指す市民参加・地域コミュニティの姿」を追記。</p>

◆ 参考とする主な御意見（要旨）

- ・ 「ゆるやか」なつながりは、参加しやすいと感じる。「ゆるやかで、しなやか」なつながりが孤立を防ぎ、安心安全につながる。
- ・ 市民が前向きに参加するためには、「余白」が重要である。チャレンジや創造を生む余白という考えが非常に良い。
- ・ 「無理なく参加できる」「ゆるやかなつながり」を重視している点は、これからの時代に合っており、多くの人に参加しやすくなる。
- ・ 「つながる・支え合う・創り合う」の目指す姿に共感する。孤独・孤立になりがちな現代社会では、「つながる・支え合う・創り合う」視点が重要。
- ・ 人口減少社会の中、京都を訪れる人や京都で働く人など地域に定着していない人にも役割を果たしてもらう必要がある。
- ・ 地域に居場所や関われる場が増えれば、世代を超えた繋がりが生まれ、若者・学生の地域活動への参加意識が高まる。
- ・ 多様な市民が地域の担い手となる「目指す姿」は評価できるが、実現には現状とのギャップを意識した柔軟な支援が必要となる。

パブリック・コメントの主な意見（第3章）

◆ ビジョンに反映した御意見（要旨）

ページ	御意見（要旨）	反映の状況
7	ページ右上に「みんなで取り組むこと」とあるが、「取組例」がほぼ行政が取り組む内容になっており、ギャップが生じている。	冒頭文の1段落目に、「住民・市民と一緒に進めていくものを基本に列挙しています。」と記載しているものの、伝わりづらいため、文章を以下のとおり、修正。 1段落目を削除。 2段落目の冒頭「まちづくり、」から、末尾の括弧書きの前「重要です。」までの文章を修正。
7	冒頭文に、「住民」が急に出てきて、違和感を覚えた。また、冒頭文は、他人事のように聞こえる。	「住民」と「市民」の両方が使われているため、「住民」を削除。 末尾が「～が重要です。」となっていることが人ごとに聞こえるため、文章を修正。
8	アプローチ⑥の取組例1つ目の「わくわく」「もやもや」に唐突感を感じる。市民に伝わりにくいのではないか。	「わくわく」「もやもや」という言葉は、国等でも使われている言葉であるが、わかりやすくするよう『「わくわく（興味・関心）」や「もやもや（言葉にならない困りごと・違和感）」』に修正。

◆ 参考とする主な御意見（要旨）

- ・ 市民が主役のまちづくりに向けた多角的な方向性は評価できるが、実行性向上のための具体的な工夫や、担い手の負担軽減、挑戦を後押しする支援体制が必要ではないか。
- ・ 自治会の負担軽減と継続支援で、参加を更に促進すべき。負担軽減に向けては、自治会の役割の改革が必要。
- ・ デジタルでの発信は若者には有効であるが、高齢者には難しい可能性もあるため、全てをデジタル化する必要はない。
- ・ アプローチは、モデルケースや段階的な進め方の提示があるとより活用しやすくなる。また、取組の成果等を共有する仕組みを設けることで、地域間の学び合いも一層促進される。
- ・ 市民参加を特別な活動のみに限定せず、日常の延長線上にある活動としている点が重要である。
- ・ 京都市民以外の方が参加することにより、市民意見が無視されることにつながらないか。

パブリック・コメントの主な意見（第4章）

◆ ビジョンに反映した御意見（要旨）

ページ	御意見（要旨）	反映の状況
10	伝えたい事がわからない。 「地域住民主体の団体、企業、学校などと、行政との繋がりを深めていきましょう！」ということだと思いが、もっとシンプルな内容に。わかりにくい言葉や図を添えたら逆効果だと思う。	文章および図を修正。 ・ 図を多様な主体同士も連携しつつ、活動が行われていることを表すよう修正。 ・ 行政を含む多様な主体が、結節点となることを表すよう修正。 ・ パブコメを踏まえて、文章を修正。
10	多様な主体と行政は、それぞれ別の枠組みで単に連携するだけのように見える。	
10	図の矢印がわかりにくい。多様な主体と市役所が連携して取り組むことがわかりやすく表現できた方が良い。	
10	多様な主体をひとまとめにするのではなく、多様な主体同士も連携して取り組んでいるような図にしてはどうか。	
10	文章と図が「協働」の視点だけであり、「共創」の視点も必要ではないか。	

◆ 参考とする主な御意見（要旨）

- ・ 区役所・支所と局等の連携が重要である。区役所が「つなぐ役割」を担い、行政だけで完結しない姿勢は納得感がある。
- ・ 多様な主体のつながりが良質なまちづくりにつながる。
- ・ 行政が結節点となって様々なつながりを作って欲しい。区役所・支所が結節点となり、地域の声が反映するまちづくりに期待する。
- ・ 大学・学生との連携・交流機会の増加が必要である。関係人口・交流人口を増やし、地域とつながりを持つ必要がある。
- ・ 市民が政策の形成過程で関われる仕組みが必要である。市民への意見聴取と意見反映の仕組みが必要である。

パブリック・コメントの主な意見（第5章、資料集）

◆ ビジョンに反映した御意見（要旨）

ページ	御意見（要旨）	反映の状況
11,12	「ウェルビーイング」や「DX」などの用語が難解である。	ウェルビーイング：京都基本構想でも使われていないことを踏まえて、「市民のウェルビーイングの向上を図ります。」を「誰もが安心していきいき暮らすことができ、支え合いながら生きがいを持って活躍できる地域社会をつくれます。」に修正。 DXは、注釈「DX：デジタル・トランスフォーメーションの略。デジタル技術を活用した業務プロセス等の見直し。」をつける。
12	「第5章 区役所の役割・区役所像」の中に「市民の自主的活動の情報を収集し、市役所内、市民と情報共有する」といったことを記載してはどうか。	区役所像②に、「地域活動の好事例を収集し、市民と情報共有するとともに」を追記。
12	DXや効率化だけが強調されている印象もあるため、「人に投資する区役所」としての人材育成を打ち出して欲しい。	区役所像⑤の説明文を、「時代の変化とともに変わり続ける正解のない課題にも、職員一人ひとりが主体性を持ち、互いの強みを活かして協力しながら、スピード感を持って動ける組織作りやマネジメント改革、職員育成を進めるなど、仕事の在り方を不断に見直していきます。」に修正。
13	社会情勢の変化の令和のところに、「平成の傾向が続く」と書いてあるが、何の傾向なのかがわからない。	わかりにくい表現であるため削除。

◆ 参考とする主な御意見（要旨）

- ・ 区役所が市政をリードするという考え方は新しい。区役所を市民が集える場にすべきである。
- ・ 区役所の役割は共感できる。役割を実行できる体制の充実、人材育成を進めて欲しい。職員の負担軽減が必要である。
- ・ 区役所が市民の声を拾い、つなぎ、政策に生かしていく役割を担うのであれば、「意見をどう受け止め、どう生かしたのか」が見える形で示されることが重要である。
- ・ 区役所が学生にとって身近な存在となり、地域活動や市民参加に関する情報をもっと学生に向けて発信をすべき。区役所が若者の地域活動への参加につながる窓口になるべき。

【修正内容】

① 市長あいさつ文

ビジョンの冒頭（表紙の次ページ）に松井市長あいさつ文を追加。

あいさつ文は、京都市の担当課と調整のうえ、ビジョンの冊子印刷までに作成予定。

② 第3章 アプローチ及び取組例

「アプローチ④ 多様な違いを受け止め、支え合う福祉のまちづくり」について、「福祉」のみに限定しない趣旨で、「アプローチ④ 多様な違いを受け止め、支え合うまちづくり」に修正。

③ 資料集

13ページ、「世帯の状況」に掲載しているアンケート結果に、国勢調査の世帯数を追記。

④ ビジョンの策定経過

19～20ページに、ビジョンの策定経過を追加。

市民参加推進フォーラム及び地域コミュニティ活性化推進協議会における議論の状況、市民意見を聴く場でも出された意見、パブリック・コメントで提出された意見を掲載。

⑤ 裏表紙のイラスト

裏表紙について、表紙のように市政参加やまちづくり活動、地域コミュニティをイメージしたイラストを掲載。